

岩手食材、頒布会方式で

農水畜産30者 首都圏で年初から

岩手県で農水畜産業に携わる約30者が、食材を消費者に直接届ける頒布会方式の事業を立ち上げる。10月中旬に運営会社「注文の多い食材店」を設立、11月にも首都圏を中心に営業を始める。集荷・配達には日本郵便に委託する。高品質の産物を生産者の適正価格で届けることでブランド化を図る。

初年度の売上高は2100万円を見込む。事業計画を立案した一般社団法人アグリフードヒルズ協会（盛岡市、重石桂司理事長）によると、生産者として参加を予定するのは合同会社お日さま農園（岩手県八幡平市）、丸友しまか有限会社（同県宮古市）、葛巻町畜産開発公社（同県葛

巻町）など。注文の多い食材店は生産者を含む7人が出資する。同社が発注を受け、2017年1月から毎月1回、旬の産物や特色のある産物を消費者に届ける。インターネットで生産者や産地の情報を発信。消費者のニーズも探り、多彩な食材提供に生かしていく。

重石理事長は「岩手の食材はこれまで評価が低すぎた。直接消費者に届けることで品質の良さを伝えられる。将来は生産者を北東北に広げたい」と話している。

重石理事長は「岩手の食材はこれまで評価が低すぎた。直接消費者に届けることで品質の良さを伝えられる。将来は生産者を北東北に広げたい」と話している。

重石理事長は「岩手の食材はこれまで評価が低すぎた。直接消費者に届けることで品質の良さを伝えられる。将来は生産者を北東北に広げたい」と話している。

重石理事長は「岩手の食材はこれまで評価が低すぎた。直接消費者に届けることで品質の良さを伝えられる。将来は生産者を北東北に広げたい」と話している。

重石理事長は「岩手の食材はこれまで評価が低すぎた。直接消費者に届けることで品質の良さを伝えられる。将来は生産者を北東北に広げたい」と話している。